

ペスタロッチー教育賞 受賞者紹介

児玉三夫氏

1915年、鹿児島県に生まれる。

1938年、東京帝国大学文学部教育学科卒業。長崎師範学校教諭を経、1943年より明星中学校・高等学校教諭。ペスタロッチーの教育精神を自らの教育信条の核とし、すべての生徒の心身の調和的発達に努めた。1951年より、東京都立大学助教授、早稲田大学教授としてペスタロッチーを中心とする教育学研究に成果を挙げるとともに、学校法人明星学苑副理事長、加えて明星大学副学長、明星小・中・高等学校副校長として、学苑をペスタロッチー精神に満ちた人間教育の場とすべく、主導的役割を果たした。1978年、同学苑理事長、同大学学長、同小・中・高等学校長、幼稚園長となり、一貫した人間教育の活動をさらに推進している。

氏は成城小・中・高等学校に学び、わが国におけるペスタロッチー運動の開祖ともいえる沢柳政太郎、及びその門下生小原国芳からペスタロッチー精神による薫陶を受けた。その後、大学卒業以来、今日にいたるまでの56年間、ペスタロッチー精神に生きる教育者・教育学者として多大な功績を挙げ、わが国のペスタロッチー運動を理論的・実践的に継承発展させた。とりわけ、ペスタロッチーの生前に唯一刊行された稀覯図書、コッタ版『ペスタロッチー全集』（全15巻）を復刻し、『隠者の夕暮』草稿写真版を含む『ペスタロッチー参考文献集』（全2巻）を編集出版したことは、わが国のみならず、世界のペスタロッチー運動にとって、はかりしれない貢献であるといえる。